

この人物に惚れた!


一年間のご無沙汰でした!今年も読書週間特別企画として、篠崎図書館全スタッフが本をご紹介!今回のテーマは「惚れた人物」(もちろん実在の人物も含みます)。この秋の本選びは登場人物(人間以外も!)からいかがですか?

(凡例)

「書名」	表紙
著者名	
出版社	
請求記号	
所蔵館	

本の内容紹介

「ぶたぶたさん」
矢崎存美著
光文社文庫
BFヤ
篠崎所蔵




見た目はぶたのぬいぐるみ、山崎ぶたぶたさん。中身はおじさん、働き者。人間の奥さんがいて、子どもは女の子が二人。そんな彼に出会ってしまった人々の、驚きと笑いと、なぜか少し感動してしまう、ささやかな物語。他にもシリーズあり。

山崎ぶたぶた
(ぶたのぬいぐるみ)

色は桜色、目はビーズの点目、バレーボールぐらいの小さなぶたのぬいぐるみなのに、仕事できて包容力のあるおじさんという、見た目と中身のギャップ。誠実さと優しさと、すこしとほけたかわいらしさに惚れました。

「ギリシャ語通訳」(「シャーロック・ホームズの思い出」所収)
コナン・ドイル著
延原謙訳
新潮文庫
B933ト
篠崎ほか所蔵

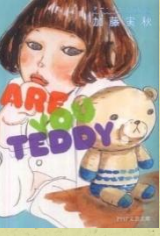


超有名な推理小説です。マイクロフトが登場するのは「ギリシャ語通訳」と「ブルース・パティントン設計書」の2作のみ。なぜ彼がシャーロック以上の探偵にできないのか。答えはこの物語の中に……。

マイクロフト・ホームズ
(英国政府職員)

彼はシャーロック・ホームズの兄であり、あのホームズをして「観察力や推理力は僕より優れている。安楽いすに坐っていてするだけの推理に終始するかぎり、前代未聞の大探偵家」と言わしめる人物である。

「アー・ユー・ティディ?」
加藤実秋著
PHP文芸文庫
BFカ
篠崎ほか所蔵

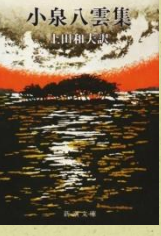


雑貨大好き少女の和子。あみぐるみのクマを買って帰ったら、中から妙な声が……。何とクマに宿っていたのはオヤジ刑事・康雄の魂。未解決事件が気になって成仏できないという。江戸川区が舞台の痛快ミステリー。続編「ティディ・ゴー!」もあり。

康雄さん、またの名をミル太
(クマのあみぐるみに宿る刑事の魂)

見た目は愛らしいクマでありながら、江戸川のジャック・ニコルソンを自称するベテラン刑事。暑苦しいお説教は、まさに昭和のオヤジそのもの。しかし、筋が通った彼の言葉はとても胸にしみる。頼りになる存在です。

「ハル」(「小泉八雲集」所収)
小泉八雲著
上田和夫訳
新潮文庫
B933ハ
篠崎ほか所蔵



夫に愛され幸せに暮らしていたハルは、ある日を境に夫の態度が急に冷たくなったのに気づく。状況を変えようと一所懸命になるハルだが、ついに夫の不実を確信せざるを得なくなり、生まれて初めて非難の言葉を言おうとするのだが……。

ハル
(商人の妻)

ハルは、いわゆる良妻賢母といわれるような女性。従順や義務に対する愛を培い、嫉みや悲嘆や怒りを表に表さず、常に夫を第一と考え、尽くしていく。これが良いか悪いかは別として、無私であろうとした彼女の姿に惚れました。

「慶安御前試合」(「柳生非情剣」所収)
隆慶一郎著
講談社文庫
BFリ
篠崎ほか所蔵




徳川家光の命により、江戸柳生の宗冬と試合をすることになった尾張柳生の連也斎。試合をすると負けると感じた宗冬が、兄利方と共に江戸に向かう連也斎の暗殺を計画する。夜襲を受け大勢の敵に囲まれた連也斎兄弟、その時尾張柳生の剣が光る。

柳生連也斎
(剣豪)

新陰流の祖・柳生石舟斎の孫、柳生兵庫助を父に持ち、猛将・島左近の娘を母に持つ、「尾張の麒麟児」といわれた最強の剣豪。血統の良さとその強さに惚れました。隠居をしたら、私も〇〇斎と雅号をつけたいと思います。

「プラントハンター」
西島清順著
徳間書店
470ニ
篠崎ほか所蔵




植物卸問屋の5代目である西島清順さんがプラントハンターとしての仕事について書いた本。私たちが知らない場所でたくましく生きる世界各国の珍しい「花」たちと、それに関わった彼らの話です。「花」を通して世界が広げられる一冊。

西島清順
(植物卸問屋)

西島さんの仕事に対する情熱に惚れました。「花」を愛し、想い、感謝する。そんな彼に「花」と同じ力強さや人間の大きさを感じました。命がけで「花」を追う彼の姿はとても輝いていて、そんな彼に惹かれずにはいられませんでした。

「旅屋おかえり」
原田マハ著
集英社
Fハ
中央ほか所蔵




芸能プロダクション「よろずやプロ」唯一のタレント・「おかえり」こと丘えりか。唯一のレギュラー番組を失った彼女が、その代わりに旅行に行けない人に代わって旅をする「旅屋」を始める。温かい出会いのエピソードが盛り沢山で、最後は涙を誘う展開にクギづけ。

萬鉄壁
(芸能プロダクション社長)

元プロボクサーで零細プロダクションの社長。正装は派手なチエックのジャケットに赤いネクタイ。四角い禿げ頭で顔・体つきはゴツイが外見と異なつて部下思いの心温かいお人好し。そんな社長に理想の上司像を感じました。

「サマータイム・ブルース」
サラ・パレッキー著
山本やよい訳
ハヤカワ・ミステリ文庫
B933ハ
篠崎所蔵




シカゴ都心に探偵事務所を構えるヴィク。ある男の依頼を受け調査を進めるうちに大胆な保険詐欺に巻き込まれます。1985年から現在も続くシリーズの記念すべき第一作。著者が保険会社勤務だったことから、保険詐欺を扱った本書は、読み応え十分。

V.I. ウォーショースキー
(女性私立探偵)

世の中の不正には、決して目をつぶらない、圧力にも暴力にも屈しない、タフな探偵V.I. ウォーショースキー(ヴィク)。事件に立ち向かうヒロインの姿は、とにかく読んでいてスカッとします。活きのいい台詞が格好良い!

「聖の青春」
大崎善生著
講談社文庫
B796才
篠崎所蔵




重い腎臓病と闘いながらがむしゃらに名人を目指した棋士・村山聖。命を燃やすように将棋を指した29年間の生涯は、家族愛、師弟愛に支えられたものだった。夢とは、生きるとは何なのか? そんな問いを胸に突きつけられます。

村山聖
(棋士)

峻烈なまでの名人への情熱。自分の全てを搾り出すように一手を指すその姿から、目が離せなくなりました。ひょうきんで素直で優しく、わがままで強情っぽりだった村山。羽生世代の一人として将棋界を席巻しました。早世が惜しまれます。

「濡れた太陽」(上・下巻)
前田司郎著
朝日新聞出版
Fマ1-2
中央ほか所蔵




県立御屋敷山高校の中でも特に地味な演劇部。そこに入部してきた相原太陽とその仲間たちが、いけてない自分をみつめながら演劇をとおして絆を深め、変わっていく。彼等のリアルな心の声がぐんぐん胸に迫ってきます。

相原太陽
(高校一年生)

演劇部全員好き。でも1人しか選ばないなら、相原太陽を選ぼう。地味で孤独な16歳が演劇に出合つてその才能に目覚めた。仲間の気持ちも大切にしながら、根拠のない自信で見事に戯曲を書き、演出の大役をも果たしたの。拍手。

「くアメージング・グレース」物語」
ジョン・ニュートン著
中澤幸夫編訳
彩流社
198ニ
篠崎ほか所蔵



信者にわかりやすく説教するために自ら作詞した賛美歌の一つが「アメージング・グレース」。その意味は、元奴隷商人であった体験から発せられた“神の恵み”である。日本人にもよく知られるゴスペルの出来た所以がわかります。

ジョン・ニュートン
(英国国教会の牧師)

あまり褒められた人物ではなかった彼が、改心し、牧師となり人のために尽くし、奴隷貿易反対を唱えるまでになった半生が綴られています。その壮絶な生き様がああ心を打つ名曲を生んだのかと思いを巡らせました。

「太陽の Pasta、豆のスープ」
宮下奈都著
集英社
Fミ
中央ほか所蔵

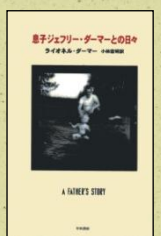


明日羽は婚約者に突然婚約破棄を告げられる。失意のどん底に落ちた明日羽は、周囲の人々に励まされ、平凡な一日一日の中にキラキラ輝く大切なものがあることに気づき立ち直っていく。温かな気持ちにさせてくれる読者への応援物語。

ロツカさん
(主人公の叔母)

文章から醸し出される、温かい眼差し。ロツカさんを始め、主人公明日羽を取り巻く人々は個性的でありながらお互いをやわらかに包み込むような人柄の良さ。こんな人達に囲まれて私も生きられたら、と思いました。

「息子ジェフリー・ダーマーとの日々」
ライオネル・ダーマー著
小林宏明訳
早川書房
V936タ
中央所蔵




得体のしれない闇へ飲み込まれた息子。彼を救い出すきっかけは、過去に存在したのであろうか。何人もの青少年を殺し、異常な行為に及んだジェフリー・ダーマー。本書は、父ライオネルの、苦悩と後悔の手記である。

ライオネル・ダーマー
(異常殺人犯の父親)

息子の犯行の詳細を、報道で知る場面が生々しい。もし自分の家族が、常識では理解しがたい世界へ踏み込んでしまったら、自分も彼のように接することができるのであろうか。ライオネルの心境を考えると心が痛む。

「命もいらず名もいらず」(上・下巻)
山本兼一著
日本放送出版協会
Fヤ1-2
篠崎ほか所蔵



徳川慶喜に仕え、立場的には朝敵でありながら明治天皇の教育係に抜擢された山岡鉄舟。まっすぐに生きる姿勢が、多くの人の信頼を得ていきます。西郷に「命も名も、官位も金もいらぬ人は始末に困る」と言わしめた、鉄舟の生き様に心打たれます。

山岡鉄舟
(幕臣)

敵である西郷隆盛との会見シーンがしびれます。自分の立場やプライドなどは関係なく、ただこれからの日本と民を思つての言動に西郷も心を動かされます。鉄舟の誠実さ、人としての強さを感じました。